

北海道 「水土里ネット深川」～先進農業プランナー～

役員：11人、職員：12人(非常勤2人)、組合員：403人、受益面積：4,540.9ha

1. 地域の概要

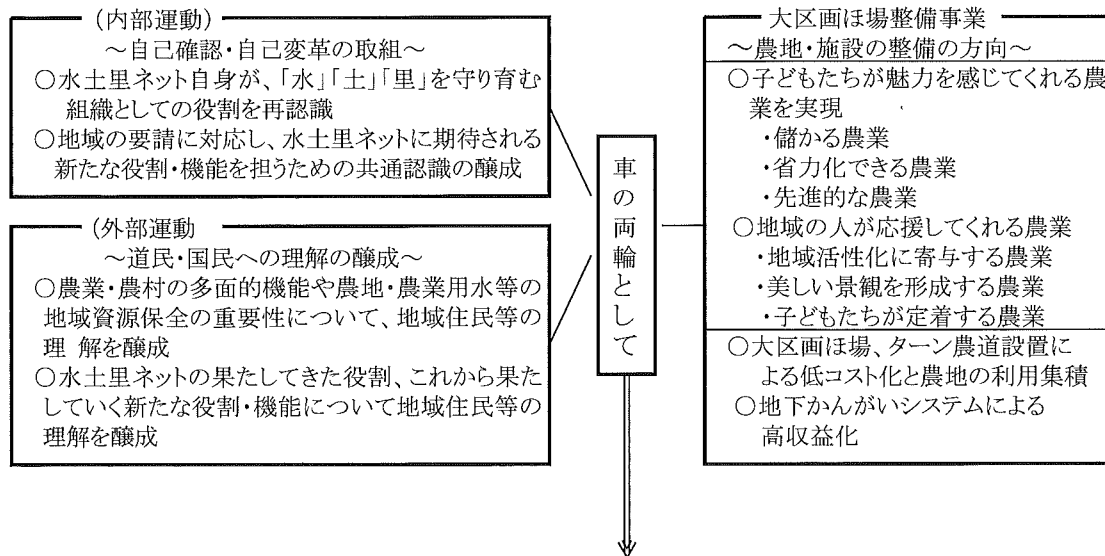
水土里ネット深川は、北海道のほぼ中央部に位置し、石狩平野北部の深川市、妹背牛町、秩父別町の1市2町に広がる平坦な農村地帯で、南は石狩川、北西部は大鳳川と雨竜川に面し東西15km、南北11kmにわたる水田4,540.9haを区域とし、用水路の管理延長は約150kmに及んでいる。

現在、国営、道営、団体営の土地改良事業を計画的に実施し、良食味米や麦・大豆などの戦略作物の安定生産に向けた区画整理、土壌改良、暗きょ排水、用排水路等の整備を進めている。特に妹背牛町では、平成20年度に全町の約3分の1に当たる農地を受益とした国営農地再編整備事業「妹背牛地区」が着工し、この地域における大規模な営農組織の展開による良質・低コスト生産体制の確立を目指して、農地の大区画化、地下かんがいシステムの導入及び用排水施設の整備と、担い手への農地集積を同時に進めている。

2. 取り組みの背景、きっかけ

当地域では、組合員の高齢化や後継者不足の進行により農地の戸当たり耕作面積が増加し、農地や農業水利施設の維持・保全が組合員の負担になってきていた。地区内農地を少ない後継者で引き継いでいくためには労働時間の減少と収益性の確保による農業経営の実現が不可欠とみられた。このため、当水土里ネットでは、一区画が2～3ヘクタールの大型ほ場とターン農道の設置、干ばつにも強い地下かんがいシステムの導入を進めることにより、GPSを搭載したトラクターなどを使った作業性の高い先進的な農業を実現することを目標に、国・道営事業などを計画的に進めてきた。しかし、次代を担う農業後継者の育成・確保や、先進的な農業の導入に向けての多額な投資への理解を地域で得ることが課題になり、ゆとりと夢のある農業の姿を将来の担い手である子供たちや地域の人たちに伝え、農業を引き継いでもらう環境づくりに努めることが当水土里ネットの重要な役割と考えた。

3. 運動の基本理念等 『地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ継承する。』



新たな水土里ネットの創造

- 地域農業を支え、子どもたちが引き継いでいける魅力ある農業・農村を築く組織として発展
- 地域が期待する農業・農村の多目的機能の発揮を支える組織として発展
- 地域との多様な連携のもとに農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織として発展

4. 主な運動の概要(開始年)

①内部運動

- 役員・組合員への運動展開の理解促進—町内会の美化・保全活動への参加(H14)
- 地域との連携による共同活動—町内会との共同活動による施設管理体制の構築(H18)

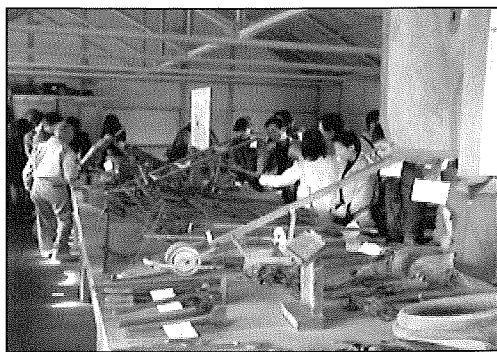
②外部運動

- 地域農業の確立と担い手づくり—規模拡大・担い手育成に対応した基盤整備の推進への理解(H20)
- 地域イベント「スローフードフェスタ in ふかがわ&青果・花卉フェア」への参加(H14)
- 農業施設見学会・出前授業等(H13)、農業歴史記念館等施設見学(H15)
- 地域住民や子どもたちの意向把握(H12)、ワークショップの開催(H9)

5. 運動全体の成果と今後の展望

地域農業を担う後継者が減少する中で、当水土里ネットは、21創造運動に取り組むことにより、効率的作業を行いうる農地整備の方向と、地域社会の中で潤いのある農村空間の大切さを広く地域住民に理解してもらい、また、このことを子どもたちに伝えることによって、将来、農業の担い手となってもらえるような人材を一人でも多く育てていくことを、運動の基本としてきた。

多くの活動を実践する中で、一般市民や子どもたちも、基幹産業が農業であるこの地域が先進的な低コスト農業が実現できることを期待しており、この期待に応えていくことが農業の収益性を高め、魅力ある農業につながるのではないかと感じている。今後は、ハード事業と21創造運動の連携をいっそう強化することにより、このような地域農業の姿を早期に実現しうよう、農家のみならず、一般市民や子どもたちとともに魅力あるほ場・農村空間を演出していくこととしている。



農業歴史記念館の様子



用水路敷地内に不法投棄看板を設置